

経済産業大臣 中川昭一 様

東京電力（株）による一連の不正事件等の総括と 再発防止のための意見

平成16年2月12日

柏崎市長 西川正純
刈羽村長 品田宏夫

平成14年8月29日、東京電力による自主点検記録改ざん問題が大きな衝撃を伴って発覚して以来の1年半余、それによりもたらされた混乱と消耗、そして地域と住民が費やしたエネルギーは計り知れないものがあります。

原子力発電所との共生を選択した我々の期待は、安全性の確保を前提とした地域振興であり、その基盤は関係者相互の信頼と国のエネルギー政策の一翼を担うという自負によって支えられているものであります。

今回の一連の事件は、これまで嘗々と築かれてきたこの前提を覆し、住民の意識に根深い痕跡を残すとともに、地域の社会経済活動にも悪影響を及ぼすという痛恨事であったと言わざるを得ません。

5年ぶりに発表された平成15年版原子力白書にも、このたびの問題が原子力に対する国民の信頼を大きく損ない、今後のエネルギー政策の遂行に重大な影を落とす結果となったとの指摘がありますが、その一義的な責任は事業者に帰することは云うまでもないものの、原子力発電の安全規制を専らにする国の機関が、この不祥事を未然に回避することができなかったという事実は、住民の不信、不安を別の意味で増幅するものであり、事件の一方の当事者としての国の責任は重く自覚されなければなりません。

事後、原子力安全・保安院から安全性についての科学的合理性を持った判断、及び国としての再発防止策等が相次いで示されはしたものの、それをもって国の規制当局に対する地元住民の信頼が回復したとは言い難い状況であります。

また、再発防止策を掲げて取り組みを進められている折に、圧力抑制室内から本来在り得べからざる異物が発見されたり、数日前に東京電力より1号機の再起動

の要請が行われている最中に、放射線管理区域からの物品搬出に不適切な取り扱いがあるなど、本来の意図から逆行するような事案が露呈されております。

私たちも停止中の号機が本来の姿に早く立ち返ることを願っておりますが、地元には様々な意見や感情が交錯しており、原子力発電そのものに対する住民の不信、不安も未だ完全に払拭し切れただとは言えませんし、そうした地元住民の意識に対する国の認識には乖離があると感じているところです。

原子力安全・保安院と原子力安全委員会とのダブルチェック体制についても、少ない人材を二分することの是非等、その実効性や規制の在り方を巡っても議論すべき点が、私たちの視点からはなお多く存在すると思われます。

失われた信頼と地元住民の安心は、科学的、技術的な安全性の論理だけで担保されるものではなく、極めて人間的な誠意に裏打ちされた不断の努力と地道な取り組みの積み重ねがあって、初めて回復可能なものであります。

国及び事業者による再発防止に向けた取り組みは緒についたばかりであり、地元住民に未だ残る複雑な気持ちを背にしつつ、柏崎市と刈羽村は、関係者の今後の取り組みを重大な関心を持って注視いたします。

一連の事件を通して住民及び関係者が受けた痛みを風化させることなく永く心に留め置き、柏崎刈羽原子力発電所の安全と地域住民の安心を確保できるように、国の規制機関である原子力安全・保安院に対し本日改めて下記のことを要求するものです。

記

- 1 停止している柏崎刈羽原子力発電所における4機の本発の再起動にあたっては、当該号機の安全性に関する十分な説明を行うことはもとよりではあるが、最近の一連の事案に対する説明も含め、1年半にも及んだ本件に対する国としての総括と、再発防止を確実なものとする事への明確なメッセージを発すること。
- 2 国の原子力安全規制体制の在り方について、原子力安全・保安院の分離独立という地元からの問題提起に対し、十分な意見交換、議論の機会を進んで積極的に設けること。
- 3 原子力安全・保安院に広報担当官を置き、今後原子力発電所で起こる事象について、地域住民に対し、迅速かつ適切な広報、情報公開を行うこと。

東京電力株式会社 取締役社長 勝俣恒久 様

一連の不正事件等の総括と 再発防止のための意見

平成16年2月12日

柏崎市長 西川正純
刈羽村長 品田宏夫

平成14年8月29日、貴社による自主点検記録改ざん問題が大きな衝撃を伴って発覚して以来の1年半余、それによりもたらされた混乱と消耗、そして地域と住民が費やしたエネルギーは計り知れないものがあります。

原子力発電所との共生を選択した我々の期待は、安全性の確保を前提とした地域振興であり、その基盤は関係者相互の信頼と国のエネルギー政策の一翼を担うという自負によって支えられているものであります。

今回の一連の事件は、これまで営々と築かれてきたこの前提を覆し、住民の意識に根深い痕跡を残すとともに、地域の社会経済活動にも悪影響を及ぼすという痛恨事であったと言わざるを得ません。

5年ぶりに発表された平成15年版原子力白書にも、このたびの問題が原子力に対する国民の信頼を大きく損ない、今後のエネルギー政策の遂行に重大な影を落とす結果となったとの指摘がありますが、東京電力は、自らの手によって引き起こしたこの全ての事態を直視し、かかる不祥事を再び起こすことのない誓いを示すとともに、それを裏付ける具体的な方策を講じることを強く求めます。

このたび、1号機の再起動についてのご要請がありましたが、残念ながら地元には未だ様々な意見や感情が交錯しており、原子力発電に対する住民の不信、不安が完全に払拭し切れたとは言い難い状況であります。

また、昨年後半から表面化してきた圧力抑制室内への異物混入や、ごく最近の放射線管理区域からの不適切な物品搬出といった事案がその懸念を増幅しかねない

という状況にもあります。

失われた信頼と地元住民の安心は、科学的、技術的な安全性の論理だけで担保されるものではなく、極めて人間的な誠意に裏打ちされた不断の努力と地道な取り組みの積み重ねがあって、初めて回復可能なものであります。

再発防止に向けた取り組みは緒についたばかりであり、地元住民に未だ残る複雑な気持ちを背にしつつ、柏崎市と刈羽村は、貴社の今後の取り組みを重大な関心を持って注視いたします。

一連の事件を通して住民及び関係者が受けた痛みを風化させることなく永く心に留め置き、柏崎刈羽原子力発電所の安全と地域住民の安心を確保できるように、貴社に対し本日改めて下記のことを要求するものです。

記

- 1 原子力発電所は、立地地域住民の理解と協力が不可欠であるとの建設当時の初心に立ち返り、今回の事案を永く戒めとして、再びこのような不祥事が再発しないよう地域住民に対し明確なメッセージを発するとともに、それを履行するための万全の対策を講じること。
- 2 原子力発電所の運営においては、安全性が経済性に優先するという社内倫理を確立、徹底させるとともに、現在示されている再発防止策を確実に実行するものとし、そして今後も普遍的な安全対策を継続して常に探求する努力を怠らないこと。
- 3 信頼の要諦は「何事も包み隠さぬこと」にある。情報公開を関連企業も含めて徹底するとともに、そのための社員の教育、職場風土の形成のための努力を持続的に行うこと。